

水の週間実行委員会会長賞（優秀賞）

今も昔も

群馬県 群馬大学教育学部附属中学校 三年 和田 菜花

私の部屋の窓からは浄水場が一望できる。そこにある大きなプールのような三つのろ過池は、空に浮かぶ雲を鏡のように水面に映し出している。傍には、緑青が吹いて歴史を感じさせる給水タンクが天高くそびえ立つ。春にはツツジ、秋には紅葉など、四季折々の自然と調和しており、その美しさは筆舌に尽くしがたい。この敷島浄水場は私にとって、とても身近な存在なのだ。

しかし見えているのはほんの一部分で、ほとんどの設備は地下や屋内にある。ここでは主に四つの工程で浄化処理を行っている。第一に、豊富な地下水をくみ上げる。近くを流れる利根川の水ではなく、地下水を水源とするのには理由がある。長い年月をかけて水が染み込む時、土壌がフィルターのように不純物を取り除いてくれる。川の水よりも良質なので、浄化処理が簡素化され、より美味しい水になるというわけだ。大きなろ過池の底には、砂が敷き詰められており、その間を通り抜ける際にさらに不純物を取り除かれる。第二には、塩素を用いて、主に大腸菌などの人に有害な菌を消毒する。その後、人間の健康に関する三十一項目、水道水としての必須条件二十項目の、全五十一項目もの厳しい水質検査をする。これに合格した安全な水が私達の家庭へ届けられる。この水は、高度な技術とそれを担う人々の努力の賜物なのだ。

しかし世界では現在、日本では考えられないような水に関する問題が起きている。

アジア諸国では水道からきれいな水が出ないところも多い。そこで井戸水を使うのだが、地下の有害な物質を含んでいることも多々ある。身体に悪いと知りながらも、生きるためにその水を飲まざるを得ない人々がいる。

また、子供や女性が水くみに時間を奪われて、学校に通うことができない現状がある。なんと「水」は教育問題にも影響していたのだ。また、

ある地域には学校に女子トイレがないために、女子が学校に行けないという現状もある。トイレがないことが女性の自由の足かせになっていることに驚いた。これらは私の予想をはるかに超えていた。

フィリピンでは水の価格の問題がある。それは、都市部に住む富裕層が水道水を安価で使用できる一方、それ以外の地域には水道が無いので、その約十倍のお金を払って水を買っているというものだ。金持ちの方が安く水を使い、貧困にあえぐ人々の方が高い水を買わなければならないなんて、本当に変な話である。世界の現状を見ると、水と人間の生活はどこであつても密接に関わり合っているの、早急に解決すべきであると思つた。

もし安全な水が簡単に手に入るようになれば、人々の命が救われるだけでなく、子供が教育を受けることが出来たり、女性も社会にどんどん進出していけるようになる。つまり経済発展にも繋がるのだ。誰もが安価に安全な水を得られれば、暮らしやすい世界になると思う。水は、私達に幸せをもたらす一方、生きていくのに不可欠であるが故に問題の種類にもなる。私がこうして幸せな毎日を過ごすことが出来ているのは、「水」に守られているからなのだ。痛感した。水道から出る水は、ただの水ではなく実は尊いものだったのだ。

「この給水タンクは私と同じくらいの歳なのよ。」

お向かいのおばさんが言っていたのを思い出す。昭和四年から今もなお休むことなく水を送り続けたそのタンクの姿は、上州のかかあ天下の芯の強さと優しさを持った彼女の姿と私の中で重なり合つた。今も昔も、みんなの笑顔の源となる「水」を守り続けている敷島浄水場を、改めて誇りに思つた。